

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
心豊かに 自ら学び ともに伸びゆく子どもの育成 「きき合い 学び合い 助け合う子」	○あいさつ ○きまり ○そうじ

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語Aでは「書くこと」の領域が県平均より高い(本校63.9% 県61.0%) ○国語ABともに「読むこと」領域に課題があり、正答率が県平均を下回った。 ○算数Aでは「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」が県平均を上回った。(本校83.3% 県66.6%) ○算数Bでは「飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ」が県平均を上回った(本校72.2%、県67.2%) ○算数ABにおいて数量や図形についての知識・理解に課題があり、正答率が県平均を下回った。 ○国語B算数Bにおいて後半の問題において無回答率が高くなる傾向がある。 <p>県(3～5年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○算数の基礎問題では2学年において県平均を上回った。 ○算数では3学年とも活用が県平均を下回った。 ○国語では2学年において基礎、活用問題共に県平均を上回った。 ○国語の「読むこと」では3学年共に県平均と同程度か上回っている。 ○学年によって傾向が異なる。 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の行事に参加する割合が高い。 ○宿題に取り組む児童は高いが、予習復習に取り組む割合は低い。 ○平日にテレビ・ビデオ等2時間以上視聴する児童の割合は高く、平日にゲームをする児童の割合も高く県平均を上回る。 ○「友だちとの約束を守る」に肯定的な回答をした児童の割合は県平均より高い。 ○「人の役に立つ人間になりたい」に肯定的な回答をした児童の割合は高い。 ○「人が困っているときは進んで助ける」に肯定的な回答をした児童が多い。 ○平日休日共に、1時間以上の家庭学習に取り組む児童の割合は県平均より低い。 ○学校以外での読書時間が10分以下の児童の割合が高い。 ○家庭での挨拶に取り組んでいる割合は県平均より高い。
---	--

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習や家庭学習の活用等を通して、現在の学習内容以外の既習事項の復習に取り組む効果が現れ始めた。 ○授業公開等の校内研修の充実を図り、「めあて・まとめ」のある授業づくりに取り組み、学習内容の定着が見られた。 ○ペア学習やグループ学習を取り入れた授業づくりに取り組み、自分の考えを書いてまとめやすくなった。 ○学校全体で統一した自主学習ノートの取り組みを充実させ、家庭学習の時間や内容が改善傾向にある。 ○減メディア週間や生活点検週間の取り組みをPTAと連携して定期的に取り組み、学習習慣意識が高まりつつある。 ○中学校の生徒指導重点「あいさつ 掃除 時間を守る」とつなげた取り組みが定着した。 ○問題データベースを全学年で活用し、学習内容の定着が図れ始めた。 ○基礎的な学習内容の定着は図られつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数では、少数の乗法や少数と整数の加法の理解など中学年の内容の定着に成果が見られるが、高学年の学習内容に課題が見られた。 ○算数Bでは、示された例に沿って考え方などを記述する問題に課題が見られた。 ○国語では目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むことに課題がある。 ○国語Bでは目的や意図に応じて文章全体の構成や引用して書くことに対して課題が大きい。 ○読書時間が短く、解答時間不足を感じている児童が多い。問題を読みこなす力に課題があると思われる。 ○テレビ等の視聴時間が長い「家庭学習時間が短い」「予習・復習の取り組みに肯定的でない」児童の割合が多く、更に改善が必要である。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
よりよい生活習慣、家庭学習習慣の定着	10月 11月 2月	減メディア週間のカードの提出率80%以上	中学校の定期考査期間に、保育園にも呼びかけ、地区全体で減メディアや家庭学習の充実を図る。学級便り、学校便り等や懇談による呼びかけとPTAと連携した啓発を行う。	減メディア週間カードの提出率は89%を達成した。PTAからも夏冬休みに減メディア啓発の取り組みを行った。	B	減メディア週間カードの提出率は90%を達成した。PTAからの啓発も継続的に取り組めた。	A	減メディア週間カードは提出率回数を重ねるごとに上がってきている。次年度は減メディアと家庭学習を結び付けるようにする。
基礎学力の定着	学年末	九九テスト合格者90%以上 朝学習の充実	学校全体としての朝学習を定期的に見直ししながら充実を図る。データベース問題を活用して現単元以外のプリントに取り組む。のびるノートを掲示して内容の充実を図る。全校九九検定の実施	朝学習の内容を統一し、定期的に見直しして充実を図った。データベースは常時活用できている。のびるノートの紹介を行っている。	B	朝学習は定期的な見直しを通して、継続的に行えた。データベースは常時活用でき、長期の休みにも活用できた。全校九九検定を年間2回実施し、正答率が上がった。	A	朝学習の統一した内容は定着し、子どもたちの落ち着いたスタートに効果があった。内容の充実や定着度合いを見ていく事が今後の検討課題としていきたい。
「読む」「書く」力の向上	学年末	「読む」「書く」活動の充実を図る	朝学習での新聞教材等の視写教材の工夫と改善を図る。授業での「書く」活動の充実を図る。読書週間等を活用した読書習慣の定着を図る。	視写の取り組みにより、書くスピードが上がっている。読書週間の取り組みの改善を図ったが読書習慣の定着は十分ではない。	C	視写の取り組みで書くスピードが上がりが、朝の落ち着いた雰囲気にも役立った。読書習慣の定着は十分とは言えなかった。	C	読書習慣の定着が十分ではなかった。読む本や記録する等検討する。視写の内容は教科書中心だったので、教科書以外にも検討していく。

※達成度 「S: 目標を多きく上回った(100%超)」 「A: 目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B: 目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C: 目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D: 目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E: 目標を達成できなかった(30%未

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
<ul style="list-style-type: none"> ○中学校の定期考査期間に合わせた減メディア週間の実施を保育園にもよびかけて取り組む。 ○中学校生徒指導重点「あいさつ きまり 時間を守る」を本校の指導の重点として取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○減メディア週間、学期始めの生活点検週間の保護者への協力をよびかける。 ○個に応じた支援、体験活動の充実に向けた学校支援ボランティアのお願いする。 ○PTAとあいさつへの取り組みを連携する。